

環境負荷低減の見える化への 取り組みについて



伊賀米
IGAMAI

伊賀ふるさと農業協同組合
営農部 農産販売課
中里 太

本日の内容

- ① 伊賀ふるさと農業協同組合について
- ② 管内の環境負荷低減の取り組み
- ③ 見える化取り組みのきっかけ
- ④ 見える化への取り組み内容
- ⑤ 今後の取り組み



かみしめてこの味

伊賀米
IGAMAI



① 伊賀ふるさと農業協同組合について

◎JAいがふるさとの概要

経営理念

農と食・緑を育み、豊かな生活づくり、潤いある地域づくりに貢献します。



かみしめてこの味
伊賀米
IGAMAI

《行動基準》

- 私たちは、農業を振興し、「食の安全・安心」に取り組みます。
- 私たちは、豊かで暮らしやすい地域づくりに取り組みます。
- 私たちは、郷土（ふるさと）を愛し、ふれあい・つながりを大切にします。
- 私たちは、責任と熱意をもって誠実に行動します。

① 伊賀ふるさと農業協同組合について

- ・三重県伊賀市・名張市が対象区域
- ・京都府、奈良県、滋賀県の県境に位置
- ・水田面積:7,176ha 主食米作付面積約:4,046ha
- ・主な作付品種…コシヒカリ、キヌヒカリ、みえのゆめ



かみしめてこの味
伊賀米
IGAMAI



① 伊賀ふるさと農業協同組合について (2025年3月31日時点)

組合員数	人 数
正組合員数	10,632人
准組合員数	9,768人
合計	20,400人

主要事業 量	種 類	金 額
金融	貯金	2,843億3,119万円
	貸出金	747億3,158万円
共済	長期共済保有高	5,746億 221万円
	その他の共済保 有高	223億6,017万円
販売	販売品取扱高	57億 404万円
購買	購買品取扱高	60億7,779万円



伊賀米
IGAMAI



① 伊賀ふるさと農業協同組合について (2025年3月31日時点)

◎販売事業内訳



かみしめてこの味

伊賀米
IGAMAI

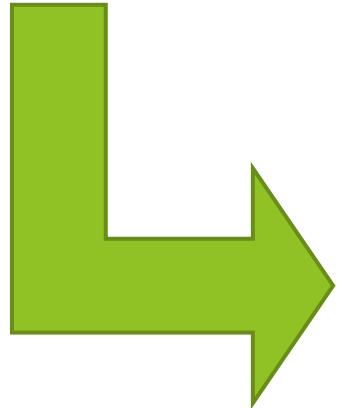
種類	販売品取扱高
農産	米 31億5,516万円
	麦 2,757万円
	豆・雑穀 3,125万円
	計 32億1,398万円
園芸	野菜 8,555万円
	果実 2億1,688万円
	椎茸 1,330万円
	そうめん 338万円
	その他 254万円
	直売所 (インショップ等) 2億1,071万円
計	5億3,279万円

種類	販売品取扱高
畜産	肉牛 13億8,772万円
	その他畜産 1億9,898万円
	計 15億8,670万円
直売所 (JA店舗)	3億7,056万円
合計	57億 404万円



② 管内の環境負荷低減の取り組み

- ・主食用水稻(コシヒカリ・みえのゆめ・三重23号)
- ・完全無農薬、減化学肥料、減農薬
- ・生産者75名(10年前は約100名)



- ・伊賀市、名張市のオーガニックヴィレッジ宣言



② 管内の環境負荷低減の取り組み

◎エコファームいがふるさとの設立

・伊賀市、名張市のオーガニックヴィレッジ宣言



・エコファームいがふるさとの設立



・環境負荷低減の見える化(R6年度試行取組)



伊賀米
IGAMAI

・環境保全型農業直接支払交付金(R7年度～)

・みどり認定取得(R7年6月)

伊賀ふるさと農業協同組合の環境負荷低減の取組実施要領（案）

JA いがふるさと
営農部

1. 背景・目的

農林水産部門における環境負荷低減の取組背景は、国が勧める「みどりの食料システム戦略」やそれに伴う「みどりの食料システム法」により大きな温室効果ガス削減を進めていくことが求められている。また伊賀市・名張市はR6年度にオーガニックヴィレッジを宣言し、生産者から消費者まで有機農業や農業の環境に対する取組みに幅広い理解を得ていく必要がある。その中で管内生産者の既存取組みに加えた温室効果ガス低減や化学農薬による生物多様性低下を防ぐ一的な環境負荷低減の取組みを以下の通り実施することとする。

2. 実施対象者

JAへ出荷する特別栽培米生産者（減農減化コシヒカリ）
各持米部会（減減・無農薬・和み減減など）

3. 実施期間

令和7年産米～（以降継続取組み）

4. 取組内容

①環境保全型農業直接支払交付金の取組み（取組みに対する対価）
既存取組みの減化学肥料・減農薬5割以上の取組みは継続しつつ、秋耕（長期中干し・輸作でも可）、IPM実践指標に基づく総合防除（畦畔機械除草）を一体的に取組み、環境保全型農業直接支払交付金（4,000円/10a）を受給。

②環境負荷低減の「見える化」の取組み（環境負荷低減のPR）

特別栽培米栽培基準に基づき最低限取組みを行っている減化学肥料・減農薬5割を基準に温室効果ガスの低減と秋耕、IPM実践指標に基づく総合防除（畦畔機械除草）を一体的に取組み、グループ申請を行い部会全体として等級を取得する。環境負荷低減の取組み PR として等級ラベルを米袋に貼り対外的な周知を図る。

③「みどり認定」取得の取組み（税制・国庫補助金等の優遇措置適用）

みどり認定の環境負荷低減事業活動申請はグループ申請が可能であり、部会全体での取得を行う事により部会員を税制特例等の優遇制度に適用させる。またR9年度より環境保全型農業直接支払交付金の要件にもなることから①と並行した取組みが必要。

④全体への周知・普及（環境負荷低減の全体底上げ）

①～③の取組みを管内全体へ周知することにより環境負荷低減の取組みの必要性と特別栽培米の普及拡大を図る。特別栽培米加算金に加えて①～③の取組みメリットとJAでグループ申請の事務支援を行うことで面積拡大を推進する。

5. 担当部署

取組年度当初（R7年度）は農産販売課及び営農企画課で担当し、R8年度からは農産販売課で担当。



③ 見える化取り組みのきっかけ

◎課題

- ・生産者、作付面積の減少
- ・消費者へのPRが弱い etc



- ・三重県庁農産園芸課から環境に配慮した取り組みの提案
- ・東海農政局三重県拠点参事官室から環境負荷低減の見える化の提案



- ・環境保全型農業直接支払交付金による取り組み農家の
メリット ⇒ 面積拡大に期待
- ・みどり認定のグループ取得による取り組み農家の税制
メリット ⇒ 取り組み農家の安定経営に期待
- ・見える化による各特別栽培米部会の取組内容のPR
⇒ 環境負荷低減の取り組みを可視化



④ 見える化への取り組み内容

◎令和6年度

- ・特別栽培米生産者1名で試行

※見える化の等級確認

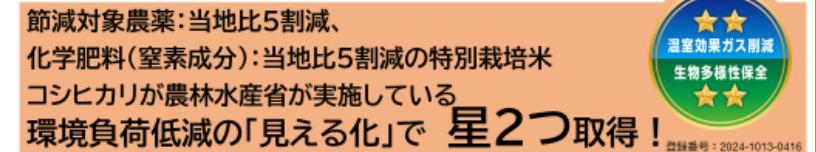
◎令和7年度



かみしめてこの味

伊賀米
IGAMAI

- ・特別栽培米の6部会毎に等級を確認
※部会により農薬成分、化学肥料成分に違いがあるため
- ・精米販売店での製品へのみえるラベル表示
- ・見える化対象商品の直売所でのPOP紹介
- ・直売所での見える化PRイベント
※東海農政局三重県拠点より提案、実行



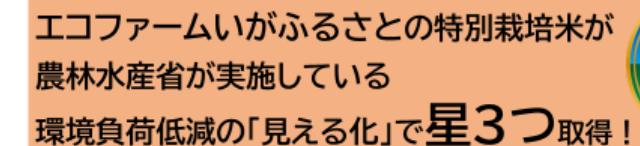
← 詳しい内容はココ！ JAいがふるさと 伊賀米センター

秋耕により冬の間に稻わらの分解を進めることで湛水時のガス発生が抑えられ、メタン排出量が削減できます。
【秋耕の効果とは】
・冬の間に稻わらの分解が進むことで「わき（湛水時のガス発生）」や
窒素飢餓の防止になり、初期成育の確保につながります。またひこばえや雑草を抑制することで、病害虫や害虫対策にも有効です。

地球温暖化の原因の
温室効果ガスの削減に貢献



登録番号: 2024-1013-0416



・秋耕の実施
・節減対象農薬・化学肥料（窒素成分）の使用を当地比5割以上削減することにより、地球温暖化の原因の
温室効果ガスの削減に貢献！

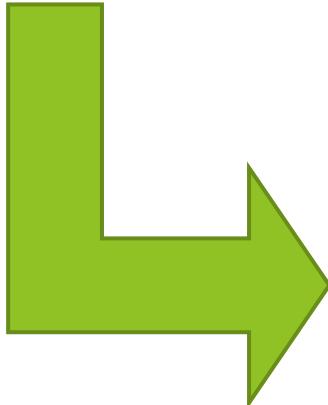


【秋耕の効果とは】
・冬の間に稻わらの分解が進むことで「わき（湛水時のガス発生）」や
窒素飢餓の防止になり、初期成育の確保につながります。またひこ
ばえや雑草を抑制することで、病害虫や害虫対策にも有効です。

⑤ 今後の取り組み

◎問題点

- ・現状は米での取り組み
- ・見える化はまだ認知されていない
- ・環境負荷低減の栽培ハードルが高い



- ・野菜、果樹の取り組み強化
- ・直売所や販売店舗でのPR強化
- ・行政と連携した環境負荷低減の独自基準設定





かみしめてこの味

伊賀米
IGAMAI

ご清聴ありがとうございました。



JAいがふるさと
LINE公式アカウント



JAいがふるさと
【農業部】
LINE公式アカウント

